

長崎を舞台にショートショート塾





塾長 長野 大生

■ 塾長コメント ■

「本を読むことはいいことだから、絵本でも、小説でも、漫画でも、読みたいと言われれば買う。我が家の子育てで、そこだけは譲らなかったよ」。大人になったとき、母に言われた言葉です。

そんな家庭で育ったものだから、幸いにも読書に“苦しさ”を感じたことはなく、それは今でも変わりません。けれども、スマートフォンなどの電子機器の普及に伴い、情報はとも簡単に手に入る世の中になりました。

故に、情報を手に入れるための手段としても親しまれていた本との関わりも少なくなり、私たちが暮らす長崎県も、25 歳以上の読書人口が全国で 41 位(2016 年)と、読書に“苦しさ”を感じる人は少なくありません。

「そんな状況を打破したい！」……なんて大きな志はありませんでしたが、「もし明日、作家になれたらどうだろう？」という好奇心から始まったのが、＜長崎を舞台にショートショート塾＞です。

令和 3 年度に長崎を舞台にしたショートショート集『道に落ちていたカステラ』を発行した私たちは、さらに活動の幅を広げていくために 2 年目の塾活動継続を選択しました。

前年度に続き多くの塾生とともに活動ができたこと。そして、彩り豊かなアイデアから

生まれた物語の数々を、昨年以上に多くの方に手に取っていただけたことに大きな達成感を感じています。塾活動は今年度を以て終了となりますが、今後も「読みたい気持ち」を育てるまちづくりの一端を担えるような文芸コミュニティとしての活動を継続していきます。

■ 塾の目的 ■



現状
電子機器の普及
誰でも簡単に
情報が手に入る



課題
読書をしていない
読解力が著しく低下



解決策
自分で物語を書く
文章力や構成力
発想力が身につく



結果
読書が習慣化
本を読みたい時代
読解力の向上へ



まちづくり
この活動を普及
「読みたい気持ち」を
育てるまちづくり

前年度は子どもたちの読解力低下に着目し、創作ワークショップの基盤づくりに注力してまいりましたが、塾活動を通じて生涯学習へ生かせるのではという意見が出ました。また、『道に落ちていたカステラ』を読まれた方から「親近感を感じられる内容でおもしろかった」「地元でこのような思いを持って活動している方々がいると知り、読みながら泣いてしまった」との声をいただくなど、とても大きな反響がありました。



Point. 1 朗読や演劇に広げられる可能性

塾生に演劇関係の方が多く、文化振興の分野への可能性を感じた



Point. 2 生涯学習としての可能性

子どもたちだけでなく、多世代で楽しめるコンテンツであると実感できた



Point. 3 参加してくれた人たちの声

これまで例のない活動で不安もあったが、塾生以外の参加も多かった

以上を踏まえて、今年度は①世代を問わず読書に触れてもらう機会を創出、②長崎で創作を楽しめるツールの制作、③ショートショートをういた地域の魅力発信の 3 点を主なテーマとして活動をスタートしました。

■ 塾の研究・活動内容 ■

継続での塾活動となったことから、夏までは新規塾生に向けた講座を中心に活動を展開。7月にショートショート作家・田丸雅智氏の超ショートショート講座(オンライン)を開催した後に、成果物の製作を実施しました。

公に向けて発信するための冊子などの製作はもちろん、文芸が楽しめるまちとしての土壌は、創作活動や読書会といった「表現の場」です。そのような環境が在り続けることが、まちづくりに繋がっていくのではないかと考えます。

■ 塾活動の成果 ■

・ショートショート冊子『MIJIKAKA』

長崎電気軌道5号系統・石橋～蛸茶屋間の各電停にまつわる26作の物語を収録したフリーペーパー。500部を配布。

・ショートショート豆本『まめ本』

子どもたちにショートショートに触れてもらう目的で、150部を配布。「まめ」をテーマに創作した10作品を収録。

・創作カードゲーム『ながさきことば』

「長崎で創作を楽しめるように」と思いを込めたワークショップ用カードゲーム。長崎にまつわる言葉をベースに150個の言葉を収録。伝習所まつりより活用を開始。

成果物に収めることができなかった作品を、こちらで紹介させていただきます。

『筆豆日記』(著：金原久美子)

父は毎日書斎に籠って日記を書いていた。毎日、何年も、何十年も。筆まめの極み。

父は、毎晩夕食が終わると書斎に籠る。子どもの頃、この時間は好きなテレビが見られ

るチャンスタイムだった。大人になって帰省した時も変わらず、夕食後の一家団らんの時間は、父のお籠りが終わってからだった。孫を連れて行っても変わらなかったけど、孫がじーちゃんの部屋におじゃますると、机に向かってお勉強をしていたらしい。

そんな父が亡くなってから数年。

父の日記をめくってみた。

父の筆豆日記は、家族のささやかな日々の記憶が詰まっていた。

家族と海へ行ったこと、孫の運動会、孫のサッカーの応援、孫の野球の応援。母とのドライブ旅行。退職の日、再就職のこと。兄とのゴルフのこと。再就職の退職。地域の役員を退いたこと。車の運転をやめたこと。

だんだん日記は乱れていく。

できないことへの苛立ち。できない自分への悔しさが滲む。

父は入院した。

同じ言葉が繰り返し現れてくる。父は施設に入った。施設でも父は書き続け、新しい手帳を持って来て欲しいと言った。

日記は荒れてくる。

文字が行に収まらなくなり、はみ出してくる。文字を聞いてくるようになる。文章にならなくなってきた。そして日記のことを忘れてしまう。

日記は空白となった。

それからまもなく、父は旅立っていった。

亡くなる前の数年間は、父と消えていく記憶との闘いの記録となっていた。

父の心が、父の願いが、父の喜びが、父の悔しさと闘いが記された、父の筆豆日記。

それは、父の姿が甦る、家族のための父の映像のフィルムとなった。

長崎を舞台にショートショート塾 活動記録

日 時	場 所	内 容
令和 4 年		
5 月 18 日(水)	長崎市立図書館	顔合わせ、年間活動計画
6 月 25 日(土)	オンライン	オンラインまちあるき(MIJIKAKA の題材探し)
7 月 9 日(土)	オンライン	田丸雅智氏・超ショートショート講座
8 月 13 日(土)	オンライン	MIJIKAKA 製作・編集会議
8 月 20 日(土)	オンライン	MIJIKAKA 製作・創作アイデアブレスト会
8 月 28 日(日)	オンライン	MIJIKAKA 製作・もくもく執筆会
9 月 6 日(火)	オンライン	塾生交流会(読書会)
9 月 14 日(水)	オンライン	塾生交流会(読書会)
10 月 22 日(土)	コワーキングスペースミナト	MIJIKAKA 製作・作品感想共有会
11 月 23 日(水・祝)	ランタナ	伝習所まつり準備・企画検討、役割分担
12 月 11 日(日)	ランタナ	伝習所まつり準備・カード製作、パネル企画
令和 5 年		
1 月 21 日(土)	地球館	伝習所まつり準備・朗読練習、カード製作
2 月 26 日(日)	ランタナ	伝習所まつり準備・豆本しおり、スタンプ製作
3 月 5 日(日)	ランタナ	伝習所まつり準備・豆本シール製作
3 月 11 日(土)	ランタナ	伝習所まつり準備・朗読練習
3 月 12 日(日)	ランタナ	伝習所まつり準備・パネル製作
3 月 14 日(火)	オンライン	伝習所まつり準備・ワークショップ企画
3 月 15 日(水)	オンライン	伝習所まつり準備・全体での最終調整
3 月 18 日(土)	ベルナード観光通り	伝習所まつり

●本塾におけるショートショートへの定義

長崎を舞台にしたアイデアと、それを生かした印象的な結末のある物語。

●各活動の目的と成果、これからの課題

【創作ワークショップの開催】

目的：想像力、文章力、読解力などを身につけていただくこと。また、創作や読書を通じた生涯学習の機会を創出するとともに、文芸という共通項を持った人が集い、コミュニティが形成されていくこと。

成果：塾生を中心に、これまで延べ50名以上の方にご参加いただきました。塾生に限らないオンライン講座を実施した他、ショートショート作家として活動されている田丸雅智氏を講師に招いた超ショートショート講座を開催するなど、塾外へ向けた活動を行えたことは2022年度の大きな成果の一つです。

課題：塾活動の大きなテーマでもある「創作活動」の普及という観点を考慮すると、塾外への活動の幅をもう少し広げられると良かったように思います。その反面、塾内での活動そのものが活性化されていた印象は強く、創作に留まらない活動が生まれました。詳細については後述いたします。



【フリーペーパーの発行】

目的：創作を通じて、舞台となったまちに興味・関心を抱いていただくこと。また、興味・関心に留まらず、実際に舞台となったまちに足を運び、物語を片手にまち歩きを楽しんでいただくこと。

成果：昨年度の成果品『道に落ちているカステラ』より作品数では劣ったものの、ロゴをはじめとしたイラストやデザインに興味を持っていただけるようなビジュアルでより多くの方の手に届けることができました。小説や物語という読み物の類は、『読み終えたら終了』とされているものです。しかし、それらが『持ち歩けるもの』に変わったことで、これまでにない新たな役割を与えられたのではないかと感じています。

課題：フリーペーパーのように、何らかの媒体を通じて発信をしていく場合、それらが継続できるか否かという点は非常に重要なポイントです。同様に、今年度の活動を継続する中でホームページの運用もスタートしましたが、定期的な発信の難しさを感じています。塾活動を終えたとき、幾分でも動ける仕組みを構築していくために、塾での研究活動と同様にコミュニティを形成していくことの大切さを肌で感じました。



【カード、豆本の制作】

目的：ワークショップをより楽しんでいただくためのツールとしてカードゲームを制作し、創作へのハードルをより下げる。また、子どもたちを中心に物としての興味を抱いていただき、手に取ることによって文芸を楽しむきっかけを提供すること。

成果：目的に沿った用途で十分に活用できたほか、制作過程における塾生の交流や市民活動における主体性を感じられる研究活動でした。成果物の作成や塾活動の中心は塾長ではなく、塾生全員にあるべきだと考えています。デザインなど属人性の高い作業はもちろんありますが、そんな中でも一人ひとりが役割を持ち進められました。

課題：ワークショップのツールが揃った一方で、塾生以外の方への普及活動を更に広げていけたら…という課題の残る結果となりました。今後の活動を行っていく中で、より多くの場所で活用できればと考えています。

●塾生の感想

(竹村 陽子)

昨年度から引き続き参加させていただきました。活動自体への参加はなかなか時間が取れずに難しい面もあったのですが、今年度から参加されている方とも昨年度から引き続きの方とも交流が出来る機会があり楽しませていただきました。

一番印象的なのは、現代ショートショートの手旗手と言われている方から直接お話を受けて執筆をするという貴重な機会に参加できたことです。塾外でも、実は去年いました、と

いう方々に関係のないところで出会ったりしました。

塾に参加したおかげで自分の創作の幅が更に広がったと思います。私の中でくすぶっていた書きたい欲を高められて、さらに素敵な出会いをたくさんさせていただきました。作品もまた新しく執筆することができたので、継続参加して良かったです。1年間お世話になりました。

(尾崎 鈴)

対面、オンライン含めいろいろな方と関わることができ、お互いの作った作品を読みあう等、1人ではあまり体験のできないような経験をさせていただきました。とても良かったです。

(中村 列子)

物語のアプローチの仕方を学び、とても参考になりました。文章に関心のある方の多さに感動しています。自分自身の周りを改めて見直す機会を与えてもらい、有意義な時間を過ごしました。

(香川 明世)

子供を見ながらの参加は難しいかなと思いつつも興味があったので思い切って入塾しました。蓋を開けてみるとみなさん子連れに寛大で、オンラインなども活用しながら活動ができたのでできる範囲で楽しく学ぶことができました。ありがとうございました！

(平山 叶奈子)

昨年度から参加し、本が好きで、文章力の高い方たちと関わることができて刺激的でした。新たな居場所を見つけた感覚で居心地が

よかったです！

(山口 紗恵)

今年度初参加です。人生で一二を争うほど、多くの他者と密に関わった活動になりました。

書き手それぞれが、各々の視点でもって作品にアプローチしていくのがとても新鮮で、それを身近で見られたことが貴重で素晴らしい体験でした。

成果物もあることで、今後自分が作品を作っていくうえでの良い経験であり、成功体験であり、楽しい思い出です。ありがとうございました。

(田村 葵)

文章を書く力をつけられたらと思って入塾しました。入ってしばらくは、本当に自分が一本の作品を作り上げられるか不安で仕方がなかったのですが、対面やオンラインでのワークショップや勉強会を通してその不安は減っていき、物語を描くことが身近なものに感じました。またこれからも書いていきたいなと思いました！

(金原 久美子)

私は誰よりも早い段階でこの塾に出会いました。なぜなら塾長が、こんな活動したいと相談に来られたときに知ったから。

まだ塾として採用されてない時ですから、なんと言っても1番のりです。

塾長から、ショートショートの手法があってと言うお話を聞き、どうやってまちづくりにフィットするかなどなど、いろいろお話をさせていただきながら、私もやってみたい！と、思っていました。

見事に塾として採択。期待いっぱいです。

ートを切りました。

たまたま伝習所の事務局を卒業して、念願叶って塾生として参加させていただきました。

活動が始まり、対面での塾活動に初めて参加できた日。

想像もつかない発想がどんどん飛び交う、みなさんのあふれ出す創造力を目の当たりにして、なんにも面白いワードが思い浮かばない自分の感覚の貧相さに、がっくりと落ち込んだことを思い出します。

その後は、オンラインでの展開。

恥ずかしいけど、顔を隠しての参加を重ねて毎回、みなさんから飛んでくる刺激的な言葉を借りながら、少しでも、なにか形にしてみる作業を続けました。

オチがなくてもいいんですって、みなさんが優しく、ちょっとでも良いところを見つけでは、ほめてくださったり、ヒントをくださったり。

みんなに背中を押してもらいながら、まあいいんじゃないかと、与えられた時間のなかで、できたものを私なりの作品として作ることができました。

なかでも、ただポコペンパンという響きだけで始まったのに、ポコペンのパン屋として、長崎の話にできたのは、ショートショートでしか生まれなかったミラクルだと感じてます。自分が書いたただの文章なのに、文庫本の形になったり、冊子になったりすると、なんかちょっと勝手に素敵な作品思えてきたりして、創作するのがとても楽しくなります。

これからも、メンバーの皆さんと、長崎愛を散りばめながら、私なりのショートショートな物語作りを続けていきたいです。

2年間ありがとうございました。

長崎を舞台にショートショート塾

塾長	長野 大生				
1	平山 叶奈子	21	浅野 宇泰	41	
2	森 恭佑	22	香川 明世	42	
3	森 勇吉	23	吉岡 亜千花	43	
4	中岡 党予	24	片山 健太	44	
5	亀井 琴絵	25	山口 紗恵	45	
6	金原 久美子	26	高以良 鴻	46	
7	田村 桜子	27	前川 澄香	47	
8	竹村 陽子	28	中岡 紗蘭	48	
9	木村 加世子	29	和田 一菜	49	
10	三原 凜奈	30		50	
11	中村 留律子	31		51	
12	尾崎 鈴	32		52	
13	堀畑 潤羽	33		53	
14	古賀 昭子	34		54	
15	田村 葵	35		55	
16	小森 千尋	36		56	
17	中村 列子	37		57	
18	大淵 靖子	38		58	
19	上吉原 裕子	39		59	
20	峰 勇輝	40		事務局員	文化振興課 千葉 彩夏